

令和6年度 学校経営方針

武蔵野市立第四中学校 校長 喜連 寛武

1 はじめに

令和6年度の教育活動は、「知」「徳」「体」の調和のとれた生徒を育成することを主眼とし、本校の教育目標達成のために取り組む。社会の変化が著しく**速く激しい先行き不透明な時代**を生き抜く力を養うために、中学校3年間で「知力」「徳力」「体力」の向上に取り組んでいく。

そのために我々は、教員である前に一社会人として、自己研鑽に努める。場に応じたTPOをわきまえる。そして、生徒・職員に笑顔があり活力に満ちあふれた組織にする。

教員として第一に授業力、生徒指導力の向上を常に目指し、改善を図る。授業では生徒が主体的・対話的で深い学びをし、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性の観点から指導と評価の一体化した授業を展開し、生徒の資質・能力を高めしていく。生徒にとっては、1時間の授業が生涯の中の1時間となる。学校生活の8割は授業であることを念頭に授業を行う。

さらには、武蔵野市教育委員会の目標の一つであるインクルーシブ教育システムの理念に基づき、特別支援学級と通常学級との交流を図っていく。生徒が主体的に取り組み、こどもまんなか社会をさらに実現させていく。

また、人権尊重教育、コロナ禍で行った方法を基本に働き方改革をさらに行う。一人一台の端末活用の充実、部活動の地域移行を現実らせていく。

2 目指す学校

(1) 教育目標

人権尊重の精神に基づき、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成を目指す。

また、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる基礎を培う教育の視点に立って、次の通り本校の教育目標を設定する。

- 一 進んで学習しよう
- 二 力を合わせて働こう
- 三 励ましあって身体を鍛えよう

(2) 目指す学校像

教育目標達成のために、具体的な学校像を示す。

- ① 生徒にとって 「安心で、明日も登校したくなる学校」
- ② 保護者にとって 「教職員・職員が信頼できる学校」
- ③ 地域から 「協力を得られる学校」
- ④ 教職員は 「はじめに一社会人であり、教職員である自覚」

そのためには、生徒を第一に考え、

ア 生徒の模範となり、一人一人に教育的愛情を注ぐ

イ 保護者、地域との連携を深める

ウ 学習指導力、生徒指導力・進路指導力、外部折衝力、組織対応力を高める

(3) 目指す生徒像 本校の教育目標を目指す生徒像の主たる姿とする。

具体的には、

① 自ら考え、進んで行動する生徒

② 進んであいさつのできる生徒

③ 人権を尊重する生徒

④ 公共に尽くせる生徒

⑤ コミュニケーションを大切に、仲間を大切にする生徒

⑥ 身体を鍛え、体力の向上、健康の増進を図る生徒

3 中期的目標と目標達成のための方策

	中期的な目標	目標達成のための方策
(1)	自ら進んで学習に取り組む習慣を定着させる	○全教職員が常に授業を見直し、改善を図り、授業力の向上を図る。 ○各研修会や教師道場、都研究員、都研究開発委員等で学んだ指導方法を伝達し、拡充していく。
(2)	豊かな心の育成	○一人一人の人権を尊重し、自分の大切さ、他の人の大切さを認める教育活動を実践する。
(3)	体力の向上・健康教育	○運動に親しむ習慣を育て、運動する楽しさや健康に関する知識を身につけ、健康な生活を実践できる力を育成する。 ○健康の増進に関する知識を高め、自己の心身を大切にする心を育てる。
(4)	信頼される学校 地域との連携	○学校情報の適切かつ定期的な発信と、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ○毎日が学校公開日である。教育活動を常に発信していく。
(5)	特別活動・部活動	○インクルーシブ教育システムの考えを元にした生活指導を行う。 ○令和の時代に応じた、部活動を実践していく。

(6)	特色ある学校づくり	<p>○体育祭、四中祭、セカンドスクール、合唱コンクール等の伝統ある行事の充実を図る。</p> <p>○温水プールを活用し、体力向上を図る。</p> <p>○学校図書館の利用を充実し、読書をする習慣の定着を図る。</p> <p>○共生社会の理念に基づき、特別支援学級との交流活動を充実させる。</p>
(7)	働き方改革	<p>○学校行事の見直し、会議の精選、業務の見直し、ペーパーレス化に努める。</p> <p>○部活動の地域移行に則り、部活動指導員や地域の指導者による運営を目指す。</p>

4 今年度の取組み目標と方策(教育活動の目標と目標達成の方策)

	教育活動	目標達成のための方策
(1)	<p>①主体的・対話的・深い学びを確実に実践する。</p> <p>②ICT 機器活用の習慣化を図る。</p> <p>③デジタル教科書の活用を充実させるための検証期間とする。</p>	<p>○全教職員が毎時のねらい、本時の授業の流れを示し、授業終了前に振り返りを行う。</p> <p>○教師道場、都教育研究員で学んだことを伝達していく。</p> <p>○全教職員が ICT 機器を活用した授業を実践する。</p> <p>○デジタル教科書を活用し、検証していく。</p>
(2)	<p>①いじめのない、全生徒が安心できる学校生活を送れる。</p> <p>②人権尊重の理念を理解させ、生命尊重や思いやりの心をもって自ら判断して行動する生徒の育成。</p>	<p>○生活規律を定着させ、身だしなみ、言動を整えさせる。</p> <p>○だめなことはだめと毅然とした指導を実践する。</p> <p>○SNS の正しい使い方を家庭・関係機関と連携しながら指導にあたる。</p> <p>○些細な事でも見逃さず受け止める。チーム四中として全教職員が組織的に複数で対応していく。</p> <p>(初期対応を誤らない)(後手後手にならない)</p> <p>(一人で抱え込まない)</p> <p>○全ての教育活動の中で、教員が人権を意識し、都の人権プログラムに</p>

		<p>ある普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を理解し、日頃の授業や生徒指導に生かす。</p> <p>○生徒の呼名は、～さんとする。</p> <p>○道徳推進教師を中心に、道徳の授業を充実させ、生徒の心の健康と健全育成を図る。</p>
(3)	体力の向上・健康教育の充実を図る。	<p>○保健体育の授業では、6月から11月の温水プールを利用した体力づくりを図る。</p> <p>○薬物乱用防止教室を行い、違法薬物についての知識を高める。</p> <p>○がん教育を通して健康増進のための知識を習得させ、健康な身体と体力の向上に努める。</p>
(4)	信頼される学校 地域との連携を図る。	<p>○本校のホームページから、リアルタイムに情報を発信していく。</p> <p>○地域行事に積極的に参加し、保護者、地域との関係を深める。</p>
(5)	特別活動((こどもまんなか社会)部活動のありかた	<p>○生徒が主となり活動をしていく。</p> <p>○部活動指導員による指導に広げていく。</p>
(6)	特色ある学校づくり	<p>○体育祭、セカンドスクール、四中祭、合唱コンクール等、本校の特色となっている行事を一人一人の生徒や学級等の集団にどのような力を付けるかという観点で絶えず見直し、より一層の充実を図る。</p> <p>○学校図書館担当教諭を中心に学校図書館サポーターとの連携を重視し、学校図書館の放課後開放等、新しい取組を通して、学校図書館の活用を充実させる。</p> <p>○保健体育科において総合的な基礎体力の向上を目指し、6月から11月までの温水プールでの水泳指導、体力向上をねらいとしたトレーニングを実践する。</p> <p>○特別支援学級との交流の場、回数を増やしていく。</p>

(7)	働き方改革	○学校行事、日常業務、会議のありかたを見直していく。
-----	-------	----------------------------

5 最後に

何事も、報告・連絡・相談・対応・確認までお願いします。

最初からできませんでは、前に進めません。どのようにしたらできるか考えていきましょう。

課題は多いですが、働き方改革に則り、合理的に改善していく点、さらに質を高める点など常に出し合い職務を遂行していきましょう。

また、教員は視野が狭いと言われています。社会的視野を広く持ち、現在の教育や社会の流れを把握していきましょう。